

秋田県仙北市

CASE : 05

合資会社エコニコ農園

(平成24年度六次産業化・地産地消認定事業者)

(資) エコニコ農園の小島無限責任社員

■ブルーベリー栽培を通じた元気な地域づくり

(資) エコニコ農園では、ブルーベリーの摘み取り園の経営や生鮮販売、ブルーベリー加工品の製造・販売のほか、地域でのブルーベリー栽培の促進などを通じて、地域活性化に取り組んでいます。

◆劇団わらび座の農業部門

劇団わらび座を運営する(株)わらび座は、自社が運営する「たざわこ芸術村」への来場者に、自然の中でリフレッシュしてもらいたいとの考えから自社内に緑化部門を設け、平成15年にブルーベリーの栽培(0.8ヘクタール、900本)をスタート。平成18年には農業生産法人(資)エコニコ農園を設立し、摘み取り園や直売を開始しました。

同農園では、現在ブルーベリーを4.8ヘクタール(約1万本)栽培していますが、その栽培方法はブルーベリー栽培では日本の第一人者の指導を受け、農薬を使用せず土づくりから行い、全ての果実に太陽の光が届くように徹底的に枝を剪定し、大粒で糖度の高い実がつくように工夫した栽培を行っています。

また、販売する果実は樹上完熟したものだけを収穫、一粒一粒手作業で選別しており、生鮮・加工品とも品種別の風味を味わっていただけるようにしているとのこと。



ブルーベリーの収穫



ブルーベリー苗木(植栽2年目)

◆ブルーベリー栽培による地域づくり

転作田の有効活用や、新たな地域特産品の開発等による経営の安定と元気で魅力的な地域をつくろうと、仙北市や大仙市、美郷町の農家とともにエコニコ農園が事務局となり、「みずほの里いきいきネット協議会」を平成20年に設立しました。

同協議会では、エコニコ農園が主体となり、ブルーベリー栽培を通じた産地づくりを進めるため、毎年研修会等を開催した結果、設立当初は0.8ヘクタールであったブルーベリー栽培も平成26年には10.1ヘクタールまで拡大しています。

また、平成24年には同協議会が主体となり、全国のブルーベリー生産者を集めた産地シンポジウムを開催したことがきっかけとなり、JA秋田おばこにブルーベリー部会が設立され、現在、同協議会の栽培農家20戸がJA秋田おばこを通じた生鮮の出荷や直売のほか、地域の小学生等の収穫体験などを実施しているとのこと。



栽培ほ場の視察研修会

◆ブルーベリーを使った6次産業化の取組

エコニコ農園では、地域のブルーベリー栽培を拡大し、また、販路の確保や新たな特産品の開発・販売を通じて需要の開拓を図るため、平成24年度に六次産業化・地産地消法の認定を受けました。

平成25、26年には、県の助成事業を活用しブルーベリーの苗木を新たに植栽するとともに、加工品の製造を行うための冷凍庫や加工所などを整備しています。

現在、ブルーベリーは、たざわこ芸術村来場者や首都圏及び秋田県内のホテル、飲食店などへ生鮮で販売しているほか、ブルーベリーの品種別の特性を活かした数種類のジャムなどの加工品の製造・販売を行っています。

また、地元農産物を加工販売する仙北市の6次産業化拠点施設「食彩・町家館」（仙北市角館町に平成27年4月19日オープン）等でも販売する予定とのことです。



ブルーベリー（品種：ウエイマウス）



ブルーベリージャム（品種：ブルックOPP）

◆消費者と地域の交流

エコニコ農園が所在するたざわこ芸術村では、専門のコーディネーターを配置し、昭和52年から継続して農業体験学習旅行を受け入れております。受け入れにあたっては、近隣はもとより秋田県内の農家と連携することにより年間約2万人を受け入れ、田植えや稲刈り、野菜の収穫などその時期に合った農作業を体験するほか、劇団わらび座の観劇など、自然体験、労働体験、芸術体験など幅広い体験学習ができるメニューを提供しています。

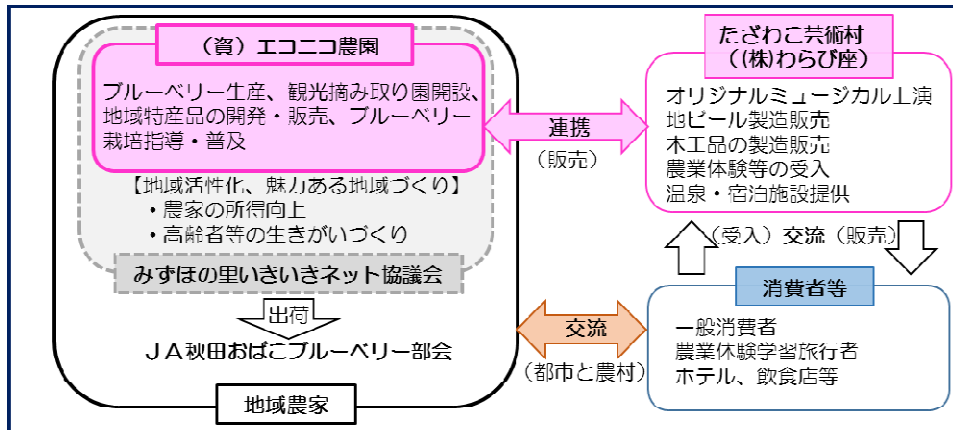
特に、学校法人和光学園（東京都町田市）とは38年に及ぶ交流があり、平成20年からは受け入れ農家が栽培した米「和光米」の産直を、同学園生徒の家庭や同窓生の方々等向けに、年間約20トン（平成22年産米）ほど販売しているとのことです。

エコニコ農園の小島無限責任社員（(株)わらび座会長）は、“魅力ある地域づくりに少しでも貢献できるようにしたい”と話しています。



農業体験

(資)エコニコ農園の取組



合資会社エコニコ農園

秋田県仙北市田沢湖卒田字早稲田390

電話：0187-44-3929

たざわこ芸術村：<http://www.warabi.or.jp/>

